



国際化の最前線から



旅行者に寄り添い、地域に光を

株式会社地球の歩き方 観光マーケティング事業部長 勝政 直樹

先日、クリアのプロモーションアドバイザー派遣制度を通じて、大阪市都島区に伺う機会を得た。1年半後に迫る大阪・関西万博もきっかけとして、訪阪外客を誘致。区内、なかでもまずは京橋駅周辺でにぎわいと消費を創出する事業計画を作る目的だ。京橋駅といえば、大阪市内でも屈指のターミナル駅。5路線が乗り入れており、京都をはじめとする主要観光地の多くへ乗り換えなしでアクセス可能だ。関西観光の主たる宿泊地となりうるポテンシャルを感じる一方、いまのところ、旅行者が駅周辺で街歩きや飲食している様子は未だあまり見かけない。

第一歩は、宿泊地としてのストーリーとブランド作り、宿泊客がナイトタイム&モーニングタイムを楽しめるコンテンツ開発かと考える。このコンテンツとして、地元客でにぎわう京橋商店街は魅力的に映る。焼肉やラーメンなど昔ながらの飲食、立ち食い店が所狭しと軒を連ね、ゲームセンターやパチンコ店も健在。大阪らしい活気あふれる生活文化を追体験できるスポットだ。

ひとはなぜ旅するのか。非日常に身を委ねることで得られる偶然の出会いや発見が、人生を彩り豊かにするからだと思う。旅行者にとって、旅先の生活文化は非日常だ。当社では近年、『地球の歩き方』ガイドブックの国内版がヒットを重ねている。ヒットのポイントは、旅行者への徹底的な寄り添いだ。観光地として未だよく知られていないスポットを含む全ての市町を網羅し、歴史文化などのストーリーを添えて深掘る。新たな観光体験を誘発することで、旅人はもちろん、舞台となる地域住民の支持も得られている。

インバウンド市場が活況だ。円安もテコに、訪日外客数は遠くなくコロナ禍前に戻る見通しがある一方、オーバーツーリズムの懸念もではじめている。観光を持続可能なものとするためには、未だ見ぬ地域に光をあてることが急務だ。コンテンツは、地域それぞれに必ずある。



『地球の歩き方』ガイドブック国内版（一部イメージ）



京橋駅に隣接する京橋商店街を視察

プロフィール

勝政 直樹（かつまさ なおき）
岩手県一関市出身。2001年、ダイヤモンド・ビッグ社に入社。2008年より訪日外客向けメディア「GOOD LUCK TRIP」シリーズおよびマーケティング企画の営業を担当し、2014年よりマーケティング企画部長。2021年1月、事業譲渡に伴い地球の歩き方に入社。観光マーケティング事業部長となり、現職。「地球の歩き方」独自の観光マーケティングノウハウや国内外ネットワークを駆使し、全国各地のマーケティングをトータルにサポートしている。